修理明細票の別紙

治療した部位と治療方法

1　問診診察結果　(獅子舞　約 40ｃｍの高さ)

(1)　全く動かない。
(2)　正常な動きは、笛太鼓に合わせて踊る。
(3)　電池点検する。電池 **3** 本新品
(4)　約２０ｃｍの獅子舞と比べると、すごく大きく見える。
構造も丈夫に出来ている。

2　診察及び治療の方法

(1)　内部診察のため衣装で頭を包むように捲り上げて、最初に気づいたのは、図**-1** の頭部と胴体を繋ぐ「ピン」が右の支えから抜けていた。
このまま使い続けておれば、左の支えは折れたと思う。

図**-1**　ピンが抜けて右の支えが役に立っていない

図**-2**　治療後の正常な状態

(2)　頭部を外して、胴体の歯車部を３ブロックに分解**(**図**-3)**して、直ぐに気づいたのは、ベルトが切れていたことだ。図**-4**　　これは後で治療することにする。
(3)　ベルトが切れることは、何らかの大きな抵抗があったのかも知れない。歯車も欠けているかも知れないと思い、タップリ付いていたグリースをキレイに拭取り点検したが大丈夫だった。

図**-**３　　胴体部の分解

図**-4**　切れていたベルト

図**-5**　全歯車のチェック

(4)　図**-6** の☞の箇所に重りの鉄棒**(**直径 **1.4**ｃｍ長さ **5**ｃｍくらい**)**のの固定が外れてコロコロしていた。これは、ボンドで動かないように固定した。
(5)　スピーカーの点検は **OK** だった。ＩＣの良否の点検をベテランドクター**(**元高専教授**)**の方に依頼して調べて頂いたが、異常はなかった。

(6)　頭部を左右に傾ける仕組み**(**図**-**７☞**)** が、よろしくないのがお分かりと思います。
☞**2** の下の方が開き、上の方が接触過ぎて抵抗が多く、テスト時３Ｖの電源では回転がとまり動かなくなった。４.５Ｖでは回転するが、抵抗が多すぎモーターに無理が生じている。本体側の角をヤスリで研磨**(**研削**)**して少しは滑らかになった。

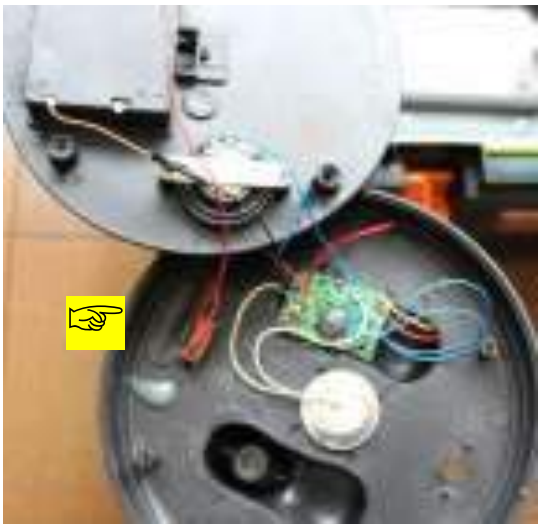

図**-6**　外れていた鉄棒のあった箇所

図**-7**　頭部を左右に傾ける仕組み

図**-8**　工夫した部品

(7)　図**-7** の☞**1** の連結部の間隔も連結部品の厚さ分、堅い竹材で部品を作り、よりスムーズに　作動する用に工夫した。止めネジもナット付のネジに替え、ボンドで緩まないようにした。

(8)　最後に、切れていたベルトをウレタン線**(**Φ**1.5** ㎜**)**で加工して組立て完成させた。図**-9**

図**-9**　ウレタン製ベルト

３　ウレタンベルト加工器具の紹介

図**-A**　図**-B**　図**-C**　図**-D**

ウレタンベルトを作るのに、まず加工器具から手作りした。「ウレタンオレンジベルトΦ**1.5**㎜長さ **10**ｍ」を **8.2**㎝ に切り、両端を半田ごてで熱してから、瞬時に図**-C** 左の小さな溝の台上に運び両端の面を合わせて接着させ、冷えて固まるまで待つ。簡単に加工することが出来ます。

お渡しした日：　平成２８年４月吉日
担当ドクター：　谷　　春　雄